

2015年1月25日発行

地域と協同の 125号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

改革の先にあるもの



吉田 濱一

JAあいち尾東代表理事組合長 JA愛知中央会会長

明けましておめでとうございます。センター会員の皆様には穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃は、JAグループに対しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私事ですが昨年6月の役員改選により地元JAでの役員再任に加え、中央会・経済連・厚生連・共済連の共通会長に選任され大変な重責を担うこととなりました。センター会員の皆様には、入会以降、同じ協同組合の仲間として個人的にもお付き合いを頂き、また組織としても協力を頂いてまいりました。引き続き宜しく願いいたします。

さてJAグループを巡る情勢については、すでにご承知のことと存じますが、これまで経験したことない厳しい状況に置かれています。政府の規制改革会議による農協改革意見に端を発して、それを基とする制度改革の議論がいま政府内で進められています。改正の内容は、中央会廃止や経済連合会の株式会社化、信用共済事業の代理店化、准組合員利用規制、非営利条項の見直しなどJA組織の根幹を揺るがしかねない内容を孕んでおり、まさに衝撃的なものです。

JAグループとしては、この間、会員や組合員とも重層的に議論を重ね、「改革は自ら進めるもの」との考えに立って、政府案に代置する自らの改革案をとりまとめ、働きかけ等を行ってきました。JAグループは、今年を実行の年と位置づけ、自らの案を軸に改革を進めていくこととしております。

政府案は、TPP問題が交渉の山場に差し掛かっている最中において、突然に出されてきたものだけに政治的な意図を感じざるをえないところです。そうした中、昨年末に生協関係の知恵者から「生協もかつて80年代に政治的バッシングを経験したが、それが組織の原点回帰に繋がり、却ってその後の生協組織を強くした」との話を間接的ではありますが伺う機会を得ました。改革の先行きがまだ見えず、不安に感じていた時だけにその話には大変勇気づけられました。

政府が進める改革の先には、協同組合よりも私企業優先、株式会社優勢の社会が見えます。これから先の社会を展望したとき、成長だけを追求する組織よりもむしろ、持続可能な社会の仕組みが求められると考えます。協同組合はそうした社会に役割を担う組織であると考えます。2012年の国際協同組合年から3年、まだまだ協同組合に対する理解は十分ではありませんが、社会的な認知を高め、これから求められる社会を拓いてゆくためにも、センターに集う組織どうしが、それぞれ生い立ちの違いはあるものの、これまで以上に相互に理解し、連携を深めてゆくことを私からもお願い申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

CONTENTS

巻頭エッセイ 改革の先にあるもの	1
三河地域懇談会 フィールドワーク「のき山学校見学」報告 ～厳しい条件、田舎の生活、難題ばかりなのにここに集まる若い人は素晴らしい！	2
2014年度上期 名古屋私立大学 協同組合寄付講義 その後 「現代社会と地域と人のつながり」が終わりました 「身近でためになる」自分の将来に照らして真剣に聴講	3
会員の活動 東海支部第14回研究例会 食と農シンポジウムより ～農業・農協の改革とTPPについて問う～	4
情報クリップ	5-7
企画案内・書籍案内	8

研究センター 1月の活動

6日(火)	生協の未来のあり方研究会
8日(木)	三重のつどい世話人会
10日(土)	共同購入事業マイスターコース五期生実践交流会
14日(水)	第9回協同の未来塾
15日(木)	組合員理事ゼミナール
17日(土)	共同購入事業マイスターコース 第6回
19日(月)	岐阜地域懇談会世話人会
20日(火)	食と農/パネル/地域福祉を支える市民協同/パネル
22日(木)	くらしを語りあう会
23日(金)	F職員の仕事を考える世話人会
26日(月)	NEWS編集委員会 29日(木) 常任理事会
28日(水)	三河地域懇談会 実行委員会
30日(金)	東海交流フォーラム報告者懇談会
31日(土)	三重のつどい 次世代農家トークバトル

三河地域懇談会 フィールドワーク「のき山学校」見学

(文責：伊藤小友美)

～厳しい条件、田舎の生活、難題ばかりなのにここに集まる若い人は素晴らしい！(参加者感想より)～

三河地域懇談会の今年度のテーマは「わたしたちのくらしと介護～地域で粋な
 古い支度を」です。安心して老いることができる地域であるために何が必要なの
 かを学び、山間地域での実践を知ることを目的に、12月3日(水)、会員16名
 の参加で、愛知県北設楽郡東栄町の「のき山学校」見学会を開催しました。

東栄町の東部小学校が廃校になったのは2010年3月です。その木造校舎を
 利活用した交流体験の夢創造空間が、NPO法人「てほへ」の「のき山学校」プ
 ロジェクトです。都市と山里をつなぐ活動、地域活性化の活動などさまざまな取
 り組みを行っています。見学会では「てほへ」副理事長の大脇聡さんにお話をう

かがいました。「志多ら」のけいこ場では、太鼓や篠笛を聞かせていただき一同大感激でした。現地で聞くと格別の趣が
 あります。蒼の森にも足を運び、間伐材でつくったログハウス、ピザなどを焼く土窯等を見学しました。ホームページ
 にたくさん写真を載せています。どうぞご参照ください。

**【大脇さんのお話】**

のき山学校プロジェクトは、山里暮らしの体験イベン
 トを通じ、都市と山里に暮らす皆さんの交流を促進する
 ものです。愛知県の事業(今年度、愛知県は、「遊休建物を
 活用した交流居住モデル事業」の中で、北設楽郡東栄
 町の旧東部小学校を交流拠点施設として有効活用し、都
 市と山村の住民の交流を目的としたイベントを継続的に
 実施する事業を行っています)で、「てほへ」が受託し、
 イマココ隊が学校駐在スタッフとして企画・運営をして
 います。来年4月からは、東栄町が指定管理制度で運営
 するようになります。地域おこし協力隊の若者が東栄町
 に5名いて、その一人がカフェを営む予定です。

のき山学校でのイベントはさまざまで、子どもたちは
 もちろん大人も楽しく参加できる「絵本作り」「自然観
 察・火おこし」「草木染め」「チェーンソーアート体験」
 「和太鼓体験」「花祭りや東栄さんさ等の芸能文化体験」
 などがあります。地元の方々にも講師をお願いしていま
 す。都市では経験できないことばかりです。

NPO法人「てほへ」は、和太鼓集団「志多ら」が立
 ち上げました。「志多ら」は小牧市で結成、1990年に
 東栄町へ拠点を移しました。廃校になった東菌目小学校
 を練習場に使っています。神社の境内に学校が建っていま
 す。奥三河を元気にできる活動をできないかと考えてつ
 くれたのが「てほへ」です。花祭りのかけ声をその名前
 にしました。国の重要無形文化財「花祭り」、その伝承を
 守る活動、和太鼓や篠笛等の伝統芸能を中心とする奥三
 河地域の地域資源に関する体験・交流・社会教育プログ
 ラムを提供する活動・事業等を行い、伝統芸能・文化の
 維持保全と地域の活性化に寄与することを目的としてい
 ます。近年社会的問題にもなっている、地域の限界集落
 化、消滅集落化を阻止するにはどうすればよいか、地域

が元気を取り戻すにはどうすればよいか、という問題
 に対し、「積極的な情報発信で人を呼び寄せ、住民が元気
 になり、にぎわいを取り戻し、花祭りを次代に引き継ぐ」
 プロジェクトを展開しています。

私たちがここへ来て20年以上が経ちました。ここで
 結婚して生まれた子どもは高校生になりました。よそも
 のの私たちを受け入れてくれた方々に感謝しています。
 いろいろなことがありましたが、ようやく恩返しができ
 るようになったかと思っています。「志多ら」のメンバ
 ーが村の人と結婚して子どもたちが増えて、集落に子ども
 がいるのは東菌目がいちばん多くなりました。

ここでは**くらしイコール花祭り**。花祭りは地域の子ど
 もたちに700年以上伝えられてきました。花祭りは天
 竜川水域で行われ、天竜川を木の幹だとすると支流は枝、
 花が咲くように祭りがあるので「花祭り」という説があ
 ります。そこへ自分たちがプロの太鼓集団として応援で
 きることはないかと考えました。「志多ら」が掲げている
 のは「土地に根ざした音楽こそ心を動かす力がある。本
 物の音を生み出したい。」ということです。舞台はここに
 根を張ってくらす中でつくっていきます。くらしの中に
 花祭りがあるのと同じです。

お世話好きな村の人が、よそものの私たちと地域の人
 の間に入って、どちらにも話をしてくれました。これが
 大きな力になりました。私たちも世話好きになれるとい
 いと思います。**奥三河の魅力を外に発信**する活動をして、
 花祭りを守っていききたいと思います。私たちはアイター
 ンでも、子どもは東栄町生まれです。仕事をつくること
 も大事だと思っています。この学校出身の子たちが、戻
 ってきてくれるとうれしいです。

名古屋市立大学 2014年度下期

寄付講義 その後 「身近でためになる」自分の将来に照らして真剣に聴講!

9月より始まった寄付講義が1月15日で終わりました。その後の状況を事務局発行のルポより一部紹介します。

《テーマⅡ ライフサイクルと地域と人のつながりが果たしている役割》

第5回目(10月23日)——南医療生協・安井洋子さんより、出産から子育て支援、地域とつなげる協同のこころみを紹介する講義がありました。社会問題化しているネグレクトの問題や協同組合が子育て世代の悩みとどう向き合うか、「赤ちゃん同窓会」や茶話会「ママクル」などの取り組みを紹介しました。特に女子学生は自身の将来を描いたのか真剣に聴講していました。

第6回目(10月30日)——コープあいち・磯村隆樹さんより、自立した生活を支える地域と人のつながりとして、震災支援、耕畜連携の米たまご、地域支え合い、福祉基金などについて講義がありました。生協が食の安全安心や、消費と生産を結び付ける活動を重視している点についても興味深く聴き入っていました。学生は「毎回身近でためになる話が聞けて楽しみです」「来週も必ず出席します」と感想を聞かせてくれました。

第7回目(11月6日)——社会福祉法人 なごや平和福祉会・岡田祐成さんより、組合員自らが、働き経営をもにう協同の仕組を学び、「雇われない」働き方の選択もあるということの講義がありました。就職活動を目前としている学生たちに営利を目的としない働き方への期待も込められました。教室いっぱい学生の熱気で熱い講義となりました。



第8回目(11月13日)——あいちあんきネット理事・弁護士の中 山 弦さんより、高齢者の詐欺被害、独居化、認知能力の衰えなど老後の課題に総合的な支援活動「人生のグランドデザインづくり」を目指すあんきネットの紹介がありました。ある学生は「わかりやすい話でした、さっそくおばあちゃんに会いに行きます」と笑顔で答えてくれました。

《テーマⅢ 地域のセーフティネットと人のつながり》

第9回目(11月20日)——南医療生協非常勤常務理事・伊藤他美子さんより、地域の包括支援体制の実践について、拠点づくりを進めながら地域包括ケアシステムを構築する医療生協の取り組みの講義がありました。安心して暮らせる地域社会を協同組合が創り上げる事例の報告がされ、学生たちに協同の力やその可能性についての話がありました。

第10回目(11月27日)——名北福祉会理事・福田富穂さんより、ドキュメント映画「障がいのある3.11」をDVDで視聴し、障がい者の置かれた困難な生活実態、災害時の救助対応の問題、そして障がいを乗り越える原動力、それを支える地域社会の理解と支援についての講義がありました。

第11回目(12月4日)——コープあいち元副理事長・仙田田鶴子さんより、少子高齢化で生じる一人暮らしの増加、地域のひととの人間関係づくりの重要性について、未来を担う若者には、シチズンシップ教育により自立した市民となるよう期待などの講義があり、高齢者の見守りを地域がどう取り組んでいるかについて学びました。

第12回目(12月11日)——JA愛知中央会常勤監事・岩橋良直さんより、持続可能な社会形成での農業の役割、食料自給率、今年は国際家族農業年にあたること、JAの事業と農業に関わる重要な役割、今後の農業問題と農政について、講義され、農のある暮らしをどう保持するのか、知識から知恵へと展開してほしいと結ばれました。

第13回目(12月4日)——協同夢プロジェクト副代表・コープあいち参与向井 忍さんより、あたらしい生協のグランドデザイン!それは医療・大学・地域が連携した、健康で安心してらせるまちづくりについて、世代間をつなぐ協同組合の講義がありました。雪の日でしたが、多くの学生が聴講しました。

《テーマⅣ まとめ》

第14回目(1月8日)——大学生協東海事業連合・名大生協、鈴木隆介さんより、今、注目の協同組合、繋がり求めて、大学生活の中で生協の価値の創造、そして自ら選択した働き方についての講義がされ、最後に賀川豊彦の「未来は我等のものな里」の言葉を贈り講義を終えました。

第15回目(1月15日)——名古屋市立大学大学院経済学研究科教授・向井清史先生より、自立した個人になって協同のつながりを意識的に作っていくことが大切であるなどのお話がありました。



【今後について】2015年度上期も今期のシラバス、サマリーを継続していくことで相談をしています。また、名市大のボランティア単位取得制度があり、協力いただいている団体にその団体登録をできないか相談することとしています。

会員活動 農業・農協問題研究所 東海支部例会 「食と農シンポジウム」 より ～農業・農協の改革とTPPについて問う～

1月22日、三重県津市三重県教育文化会館にて農業・農協問題研究所（以下略称 農農研）東海支部例会として「食と農シンポジウム」が開催されました。多くの研究センター会員も参加して行われました。その概要のまとめをいただきましたのでご紹介します。（農農研 静岡県会員 岡田厚生氏のまとめをもとに事務局が編集）

□基調報告□

農業・農協「改革」、TPPと地域農業

岐阜大学教授 荒井 聡氏

1 安倍政権による農政転換の推進—戦後レジームからの脱却—2012年12月26日の日本経済再生本部の設置に始まり、2013年に諸活動が本格化した。同年11月21日の第7回規制改革会議での「今後の農業改革の方向について（案）」がまとめられ、その後、検討が進み「規制改革実施計画（閣議決定2014年6月24日）」となった。

2 規制改革実施計画にみる農業・農協「改革」の内容

(1) 農業委員会等の見直し

- ア. 農業委員の選挙から市町村長が選任
- イ. 農地利用最適化委員の選出
- ウ. 農業委員会の事務局の強化
- エ. 都道府県農業会議・全国農業会議所制度の見直し

(2) 農地を利用できる農業生産法人の見直し

- ア. 役員要件・構成員要件の見直し（一層の条件の緩和）
- イ. 事業拡大への対応

(3) 農業協同組合の見直し

- ア. 中央会制度から新たな制度へ（現・中央会の廃止）
- イ. 全農等の事業・組織の見直し（株式会社化、独占禁止法除外）
- ウ. 単協の活性化・健全化の推進（経済事業への特化）
- エ. 単協理事会の見直しと組織形態の弾力化（協同の否定）

3 ポストTPPとしての農業・農協「改革」を跳ね返すには

(1) 農業・農協「改革」の基本性格

農業委員会改革は農民による農地の自主管理の後退、転用規制の緩和であり、農業生産法人の見直しは農外資本の農業参入促進であり、農協制度の見直しは農協グループ崩壊の危機である。

戦後レジーム（農地法、農協法、農業委員会法等）からの脱却を目指しているが、その結果は壊して終わりか？

(2) TPPと農業「改革」

TPPと農業「改革」の推進者は同一である。TPPは市場原理・資本の論理の国際版で、農業「改革」はその国内版である。

(3) TPP、農業・農協「改革」を跳ね返すには

資本から出発するのではなく、人の暮らしから出発することが大切である。資本と違って人（労働力商品）の動きは緩慢である。

世界の農業経営に多い家族経営はその役割は効率性のみからでなく、持続性から評価すべきである。地域では内部循環性の高い経済が必要で、農業とその6次産業化（1+2+3又は1×2×3=6）等の役割が大きくな

る。零細の家族経営はもとより、家族・法人形態の大規模経営にとっても協同組合の役割は大きい。しかし、農協も変わる必要がある。販売力の強化や地域内再投資、協同組合間提携をより強める必要がある。



□農家からの話題提供□—あらためて家族農業経営の位置づけを考える

三重県農農研会員 早川 喬氏

地域の水田は整備されており、家族農業経営が主体であるが、農地管理が行われていることに感心している。鈴鹿市でも平野部では大規模経営に管理を任せる地域が増加している。その中には除草剤を使用するため一時的には草一本も見ないことがあり、大規模化が進めば効率優先でこんな風景になるのかと心配である。私の地域でも共同作業が出来にくくなって、だんだん地域環境が守れるか不安である。

私は水稻栽培の苗づくりと収穫物の乾燥を農協に頼んでいて、また、農業資材は全部、農協から買っている。農協があるから家族農業経営がやっていけるのであって、農協が無くなり、儲かることしかやらないと農業はやっつけられない。課題はあるが、協同組合として農村地域と家族農業経営を守ってきた農協がどうなるか、非常に不安である。

□消費者からの話題提供□— コープみえ 森 一代氏

私は6年ほど前から、生協の仲間と津市白山町で、耕作放棄地の水田を借りて米づくりをしている。白山町での米作りは、とにかく、耕作放棄地の除草から始め、猪・鹿対策、水路整備までやり、田植えまでこぎつけた。その後、田の草取り、畦の直しなどもやり、やっと収穫までたどりついた。この体験を通じて農業の大変さと収穫の喜びを実感した。

消費者としては米の価格、野菜の安全性などに関心がある。いろいろ勉強していくと国の農政は変わりすぎると思う。また、TPPは消費者として無関心でいられない。消費者として声を上げるべきときは声を上げ、そして何か行動もすべきであると思う。そのためにもこれからも学習していきたい。

質疑応答及び意見交換の後、荒井氏から、農業・農協「改革」の前提にある効率性だけでは農業は発展しない、消費者と一緒に協同の運動をすすめる必要があるし、そのためにはお互いに意見をたたかわすことが重要であるとのまとめがあった。

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶地域のクアインが 選ばれる店づくり</p> <hr/> <p>NAVI 2015. 1 754</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>新春特別対談 消費者が主役の社会を目指して 消費者庁・坂東久美子長官 日本生協連 浅田克己会長</p> <p>特集 地域の組合員から選ばれる店づくり —黒字店舗を目指す部門強化と組合員対応—</p> <p><僕らは商品探偵団> コクと香りと具材がゴロゴロビーフカレー <全国のラブ・コープ・キャンペーン♪ラブコが行く> 創立30周年記念♪「とくしま生協フェスティバル」が開催されたよ！ <突撃☆あなたの街の組合員活動>鳥取県生協 <進化する生協の店づくり> コープみやざき 花ヶ島店 PART I <こんにちは！生協女子ですっ！> コープおおいた 移動店舗販売担当 竹之下梨沙さん <宅配・現場レポート> 第1回生協安全運転大会 <つながろうCO・OPアクション情報> 福井県民生協 いわて生協 福島県生協連 <生協人の基礎知識> 第10回 医療福祉生協の事業と活動 <CO・OPニュースフラッシュ> コープぎふ みやぎ生協</p>	<p>2015年 1月 A4版 35頁 定価 350～円</p>
<p>▶大切にしたい「食」</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM 2015. 1 569</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>▶特集 大切にしたい「食」 いつまでもおいしく食べたい インタビュー 嚥下コントロールが健康に生きる力を高める 庄内医療生協 鶴岡協立リハビリテーション病院医師 福村直毅</p> <p>[バンビのつぶやき 24] 「お弁当」で勝負なのだ 店主 中根桂子 [現場のひらめき地域のひらめき 第1回] 「はじめまして」から始まる支援 世田谷区「認知症初期集中支援チーム」 [みんなで健康づくり 第1回] 和歌山中央医療生協 河西地区 踏み台体操（わかやまシニアエクセサイズサークル） [レポート] きらり健康生協（福島県） 上松川診療所 摂食・嚥下外来の取り組み [協同のある風景] 224 地域でいっしょに ～商店街を元気にした健康まつり 東京ふれあい医療生協</p>	<p>2015年 1月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>▶協同組合が結ぶ 「つながり」の今</p> <hr/> <p>くらしと協同 2014. 冬号</p> <p>くらしと協同の研究所</p>	<p>巻頭言 つながりの新しいかたちへ 土井隆義 争論 協同組合は「つながり」をつくれるか？ 兼子厚之 商品が広げるマルチステークホルダーの「つながり」 浜岡政好 多様なくらしを支える「つながり」と協同組合の役割 特集 協同組合が結ぶ「つながり」の今 保育園が結ぶ食を通じた人と人のつながり 元橋利恵 医療福祉生活協同組合が育む地域のつながり ～たまり場をとおした組合員・地域住民・行政間の交流 小田巻友子 高齢者生協運動の展開～育んできた「つながり」に着目して 熊倉ゆりえ 若者たちの「つながり」～大学生協学生委員会の今 奥田祐樹 くらしと協同をたずねて 下門直人 環境生協からNPO法人へ ～NPO法人碧いびわ湖の事業と活動 書評 『絆の構造～依存と自立の心理学』高橋恵子著……斉藤真緒 『社会を結びなおす～教育・仕事・家族への連携～』本田由紀著……上掛利博</p>	<p>2014年 12月 A4版 39頁 定価 350～円</p>

▶エネルギー転換
について
地域で市民にできること

- 巻頭言 この国の民主主義について考える 芳賀唯史
- ▶特集 エネルギー転換について地域で市民にできること
- 胎動するエネルギー市民革命 ―地域で市民がエネルギーに取り組む意義― 古沢広佑
- エネルギーから経済を考える 鈴木悌介
- 自治体による再生可能エネルギー利用促進の取り組みについて 池本未和
- 生活協同組合によるPPSの設立の意義・PPS登録までの経緯について 寺下晃司
- 非営利組織による地域での自然エネルギー促進活動 手塚智子
- 小田原におけるマイクロ市民水力発電は地域に何をもたらしたか 小山田大和
- 再生可能エネルギーをめぐる情勢と課題 二村睦子
- 日本における協同組合とエネルギーの歴史 三浦一浩
- 時々再録
- 日本記者クラブ「IEA世界エネルギー展望2014」 白水忠隆
- 海外情報
- 2014年国際協同組合サミットに参加して 栗本 昭
- フィンランドの高齢者福祉の近況とその前提③ 鈴木 岳
- 新刊紹介
- 消費者庁編『平成26年度版 消費者白書』 磯部浩一
- 片桐新自著『不透明社会の若者たち』 磯村正之
- 本誌特集を読んで 吉田忠則・田代洋一・夏目有人

2014年
12月
68頁
B5版

生活協同組合研究
2015. 1
468

(財) 生協総合研究所

▶これからの
「協同組合」を考える

- 特集 これからの「協同組合」を考える
- 【解説】 これからのJAを考えるに当たって JA全中広報部
- 【提言1】 「豊かな暮らしやすい地域づくり」のために 中沢新一
- 【提言2】 「自己改革」として地域に根ざした“協同組合”を考える 小山良太
- 【提言3】 持続可能な農業とJAの役割 谷口信和
- ・きずな春秋 ―協同のこころ― 童門冬二
- ・新春対談 世界に誇る日本の食と農 ～JAと地域住民で豊かな地域づくり 竹下景子 × 萬歳章
- ・ミノーレからこんにちは / JAグループ共通コンテンツ
- ・地方紙ニュース 第46回
- 「梅干でおにぎり条例」の反響 長瀬雅春 (紀伊民報)
- ・直言！JAへのメッセージ
- 本末転倒の時代 平川克美 (立教大学特任教授・文筆家)
- ・地域・支店から『戦略』を考える
- JAの競争力をどう考えるか 増田佳昭
- ・展望 JAの進むべき道 JA 監査の特性 佐藤正典
- ・海外だより [DC通信] 44
- 共和党主導の議会始まる 古林秀峰
- ・見せましょう、協働の底力！
- 学校は今も昔もよりどころ (前編)
- NPO 法人四季の学校・谷口 (山形県金山町) 青山浩子
- 次代へつなぐ協同実践塾
- ・持続可能な農業の実現
- JAグループにおける営農指導機能強化に向けた取り組み JA全中営農・経済改革推進部
- ・豊かで暮らしやすい地域社会の実現
- さらに進んだJA運営への女性参画 JA全中くらしの活動推進部
- ・10年後JAが存続するために
- プロセスチェックと内部管理態勢整備 JA全中経営指導部

2015年
1月
A4版
64頁
年間購読
料
4,800
円(送料込)

月刊JA
2015. 1
719

全国農業協同組合中央会

<p>▶買い物支援事業のあり方と運営を考える</p> <hr/> <p>生協運営資料 2015. 1 281</p> <p>日本生活協同組合連合</p>	<p>●巻頭インタビュー わが生協、かくありたい！ 阪神・淡路大震災から20年 生協のあり方を見つめ、地域とともに歩む コープこうべ●組合長理事 本田英一氏</p> <p>特集 買い物支援事業のあり方と運営を考える</p> <p>1 組合員の要望で73台の移動販売車を運行し補助金なしで黒字運営を実現 コープさっぽろ●店舗本部 移動販売部事業部 部長 前野清光氏</p> <p>2 全有人島への配達を続けて30年組合員の理解と支援の下、さらなる改善を目指す 生協コープかごしま●無店舗事業本部 本部長 山口斉氏 生協コープかごしま●無店舗事業本部 特販チームリーダー兼奄美大島事業所所長 大協理一氏</p> <p>3 全ての組合員が買い物できるように店舗記念のチャンネルをつくる ならコープ●店舗事業 店舗運営 サブマネジャー 宇野孝氏</p> <p>4 買い物弱者支援の現状と今後の課題 茨木キリスト教大学●文学部 文化交流学科 准教授 岩間信之氏</p> <p>連載 全米勝ち組小売業から学ぶ ～現地レポート 第5回 ITが進化して時代においても人を大切にする小売業の経営 JAC_USA ENTERPRISES INC ● 五十嵐ゆう子氏 全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第5回 パルシステム東京における電動アシスト自転車のリヤカー配送 パルシステム東京●江東センター センター長 奥田健太郎氏 SBSゼンツウ株式会社●生活物流部門 東日本事業部 次長 布川岳史氏</p>	<p>2015年 1月 B5版 83頁 定価850円</p>
<p>▶皆保険というシステムの中で医療はどうあるべきか</p> <hr/> <p>文化連情報 2015. 1 442</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>新年のご挨拶 JAグループ自己改革の第一歩を踏み出す重要な年 神尾透 協同組合組織としての総力を挙げ新しい環境を乗り越えましょう 山田尚之 神奈川県厚生連伊勢原病院第30回文化祭 “地域と歩む、協同病院” 新春インタビュー 皆保険というシステムの中で医療はどうあるべきか</p> <p>第58回下郷農協まつり “守ろう私たちの食と農” 西澤寛敏 仁木学長の医療時評（127） 秋元恵介 日本における混合診療解禁論争 — 全面解禁論の退場と「患者申出療養」 二木立 農業従事者の労災保険について 大原 潔 豊田厚生病院第3回病院祭に行ってきました！ 中根伸夫・関根健太郎 ノバルティス社「ディオバン」問題を考える（3） 片平冽彦 岐路に立つ日本のエネルギー政策（5） 原発事故費用を誰が払うのか（2） 大島堅一 野の風●「みんな、そのままがいいよ」森が教えてくれること 笹尾麻紀子 デンマーク&世界の地域居住（68） イギリスの高齢者施設：ナーシングホーム ③ 松岡洋子 ゲーテンターク、ドイツ（4） ベルリン、ベルリン、ベルリン（2） 鶴殿博喜 権利はたたかう者の手にある 一人間裁判・朝日茂の養子となって 朝日健二 カゾーニ — 障害者作業所・デイセンター 小磯 明</p>	<p>2015年 1月 B5版 80頁 文化連情報 編集部 03-337 0-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✳)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

2015年市民フォーラム みんなで支え合う子どもの未来

- 2015年2月22日(日) 14:00～18:00(13:30開場)
- 昭和区役所講堂(なごや地下鉄桜通線「御器所」下車8番出口)



☆講演会・・・藤村貴俊(京丹後市役所職員)
「自分が生活保護を受給していた!？」
 ☆OST(ワークショップ)・・・「子どもの貧困」～地域の子どもに私ができること～
 経済的問題を抱える家庭でおとなになるということはどういうことか

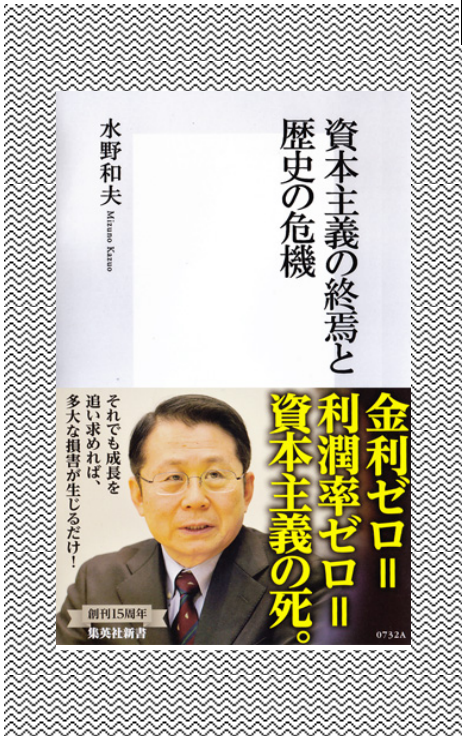
【主催/問合わせ先】 特定非営利活動法人ささしまサポートセンター

名古屋市中村区大宮町1-27-6 Tel.052-482-9325 Fax.052-482-9326

⇒<https://ja-jp.facebook.com/sasashima.info>

参加費無料

書籍案内



資本主義の終焉と歴史の危機 集英社新書

著者：水野 和夫 定価：本体740円＋税

判型：新書判218ページ 発売日：2014年3月14日

内容：金利ゼロ＝利潤率ゼロ＝資本主義の死。

それでも成長を追い求めれば、多大な損害が生じるだけ！
 資本主義の最終局面にいち早く立つ日本。世界史上、極めて稀な長期にわたるゼロ金利が示すものは、資本を投資しても利潤の出ない資本主義の「死」だ。他の先進国でも日本化は進み、近代を支えてきた資本主義というシステムが音を立てて崩れようとしている。
 一六世紀以来、世界を規定してきた資本主義というシステムがついに終焉に向かい、混沌をきわめていく「歴史の危機」。世界経済だけでなく、国民国家をも解体させる大転換期に我々は立っている。500年ぶりのこの大転換期に日本がなすべきことは？ 異常な利子率の低下という「負の条件」をプラスに転換し、新たなシステムを構築するための画期的な書！

目次

- 第一章 資本主義の延命策でかえって苦しむアメリカ
 - 第二章 新興国の近代化がもたらすパラドックス
 - 第三章 日本の未来をつくる脱成長モデル
 - 第四章 西欧の終焉
 - 第五章 資本主義はいかにして終わるのか
- おわりに——豊かさを取り戻すために

集英社新書ホームページより

研究センター 2月の活動予定

- 4日(水) 事務局会議
- 7日(土) 第11回東海交流フォーラム
「よりよい“暮らし”をつくる地域のつながり」
- 14日(土) 暮らしと生産をつなぐ「もの」づくり
- 15日(日) 共同購入事業マイスターコース第7回 (修了式)
- 16日(月) 尾張地域懇談会 世話人会
- 18日(水) 第10回協同の未来塾 (修了式)
- 19日(木) フォーラム職員の仕事を考える世話人会
- 20日(金) 寄付講義 まとめと次期準備会
- 27日(金) 環境パネル世話人会

2015年1月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市中村区千種稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>